

東南極ナピア岩体トナー島，超高温変成岩類の Sm-Nd 鉱物年代

Proterozoic Sm-Nd ages of ultrahigh-temperature metamorphic rocks from Tonagh Island, Napier Complex

大和田 正明[1]，小山内 康人[2]，豊島 剛志[3]，角替 敏昭[4]，外田 智千[5]，加々美 寛雄[6]

Masaaki Owada[1], Yasuhito Osanai[2], Tsuyoshi Toyoshima[3], Toshiaki Tsunogae[4], Tomokazu Hokada[5], Hiroo Kagami[6]

[1] 山口大・理・地球科学，[2] 岡山大・教育・地学，[3] 新潟大学・大学院自然科学，[4] 筑波大・地球，[5] 極地研，[6] 新大・自然

[1] Dept. Earth Sci., Yamaguchi Univ., [2] Earth Sci., Okayama Univ., [3] Grad. Sch. Sci. & Tech., Niigata Univ., [4] Inst. Geosci., Univ. Tsukuba, [5] NIPR, [6] Grad.Sch.Sci.Tech., Niigata Univ.

東南極ナピア岩体のトナー島には，超高温変成岩類が分布する．ピークの変成時期は約 2500 Ma と考えられている．超高温変成岩 3 試料に含まれる鉱物を分離し，Sm-Nd 法によって鉱物年代を測定した．その結果，2 試料から約 1900 Ma と 1 試料から約 1500 Ma の年代値をえた．これらのアイソクロンはザクロ石の組成に依存しており，Sm-Nd 系におけるザクロ石の年代とみなすことができる．組織や化学組成からみてザクロ石は後退変成時に晶出した可能性が高い．したがって，ナピア岩体では約 2500 Ma のピーク変成作用の後，約 1900，1500 Ma と少なくとも 2 回の変動をこうむったと考えられる．